

# 特集 限りなき前進

## 三宅会頭インタビュー

当所臨時議員総会を10月25日に開催し、任期満了に伴う役員選任を行いました。

三宅会頭はじめ河木副会頭、田端副会頭、小島副会頭、今井副会頭の再任が決まり、2期目を迎える三宅会頭にインタビューを行いました。これまでも振り返ると共に、これからの豊田市、豊田商工会議所について自身の考えと将来のビジョンを伺いました。



代へ向かうか、ここに暮らす人々から大きな期待が寄せられています。

これまで豊田市は歴史のなかで産業の発展がまちの発展をリードしてきましたが、製造業を中心とした産業構造にまちの可能性を示していくことがとても重要な意義を持つのではないかと考えています。今年新しい試みとして、とよたPR大使を任命し豊田市の魅力を市内外へ発信しています。と



### 豊田商工会議所の大きな節目として、昨年に創立60周年を迎えました。

よたPR大使の2人には、とよた産業フェスタ2013を皮切りに10月に豊田市が東京で開催した企業立地セミナーや11月の豊田マラソンなどで豊田市のPRに努めてもらいます。  
経済の変化に企業が柔軟に対応し、地域経済の持続的な成長を維持・支援することが商工会議所の使命であるから、そのような意味では非常にやりがいのある3年間であったと思います。

創立60周年という記念の年に、会頭を務めることができたのは非常に幸運な事です。60周年事業の特徴として、平成24年の1年間を記念イヤーと位置付けて様々な事業展開を行いました。例年開催している「とよた産業フェスタ」などに力を入れることはもちろん、会員の皆様への感謝を込めて開催した記念コンサートでは、1500名を越える多くの方にお越しいただき嬉しかったです。昨年今ごろ11月に開催した記念式典では、トヨタ自動車株式会社豊田章一郎名誉会長にご講演をいただき、豊田市の発展を振り返りながら自らの将来をご自身で切り拓いてきた経験をお話いただきました。

### 会頭就任から1期(3年)が経ちました。これまでを振り返っていかがですか。

この3年間、日本経済は大きく動きました。まず、何と言っても平成23年の東日本大震災。経済は大きく乱れ、被災地から遠く離れた豊田市でも基幹である自動車産業が大きな影響を受けました。基幹産業の停滞はサービス業、ホテル・飲食業など商業全体にも波及し、地域経済が根底から機能停止してしまつたような感覚を覚えています。我々はただちに会員への緊急アンケートにて実態把握に努め、それを基に緊急経済対策を策定。景気対策や復興支援を迅速に展開していただくよう行政へ要望し、地産地消・消費喚起を目的としたプレミアム商品券の発行や土曜・日曜に融資特別相談窓口を設置するなど経済の立て直しに懸命に奔走しました。

その後は、円高をはじめとする多重苦が経済成長を阻害し、自動車産業は新興国を中心に現地調達・現地生産の流れを加速させます。しかしながら、経営資源の乏しい中小・小規模企業に海外進出はハードルが高く、トヨタ自動車の生産拠点が当地域に加え九州と東北の3拠点体制になったことなども影響し、この地域の基幹産業の空洞化

を危惧しました。この時期、下山区に大規模な研究施設の建設が本格始動し、自動車における豊田市の役割が「生産」から「研究開発」へとシフトしていくことを予見させる出来事であったと感じています。

この大きな潮目の変化を逃さないよう、時代に即した地域の活性化を目指し、会員が業種ごとに所属する部会の活動強化に取り組みました。コミュニケーションの活性化を図り、豊田市の経済を支える全ての企業が一枚岩となつてこの変化に対応していく基盤作りを進めました。

最近になり、ようやく安倍政権が進める施策によって景気の回復基調が鮮明さを増してきましたが、一部を除き中小・小規模企業への恩恵はまだ波及していないのが現状です。豊田市ではまちの「顔」である中心市街地にて北地区の再開発が決まり、これまで抱えている課題をいかに解決しながら次世



また、印象に残った出来事として、復興支援を兼ねた東北経済視察の際にお会いしたある企業の社長の言葉が胸に残っています。この方は被災した地域を再生するため、借金までして工場を建て替え、90名だった従業員を200名まで増やすことで地元の雇用を維持し、なんとか産業を残そうと奮闘されていた。企業は地域のため」と話しますが私も豊田商工会議所の会頭として、地域のために行動していくことを改めて心に誓いました。

### 商工会議所という組織について、その役割はこれからどのように変化していくと思いますか。

今年は、創立から61年目であり次の70周年への礎となる大切な年です。幸運にも景気も底を打ち回復傾向が徐々に現れるようになってきました。長らく待ち望んだこのチャンスを確実なものにし、さらに持続していくためには、当地域の産業を支えている多くの中小・小規模企業がかつてのような元気を取り戻すこと、そこそが地域経済の活性化を図るうえで何よりも重要であると考えます。

次の10年を見据え、「企業」と「地域」を徹底的に支援し、時代を先取る事業展開をご期待ください。

冒頭でも述べたように、日本の経済は激変と言っても過言でない早さで変化しています。  
幸い豊田市には確固たる産業基盤がありますので、全国と比較すればその影響は少ないですが、これから経済がより国際化・IT化し、消費傾向が多様化していくなかでこの優位性がいつまで続くかは未知数です。その様な状況のなか、その製造業という基盤を次世代まで100年続く産業にするため、まずは現場で汗をかき頑張っている

